

核軍縮の実質的な進展のための1.5トラック会合：日本



日本政府が主催する「核軍縮の実質的な進展のための賢人会議」は、2017年以降、5回の会合を開催し、2019年10月に総括となる議長レポートを提出した。「核軍縮の実質的な進展のための1.5トラック会合」は、賢人会議のフォローアップを目的としたものである。2020年3月6日に東京で開催された第1回会合には、核保有国と非核保有国の政府関係者と国内外の有識者が参加した。以下はその冒頭あいさつである。

◆「核軍縮の実質的な進展のための1.5トラック会合」 尾身朝子外務大臣政務官の冒頭挨拶◆

2020年3月6日 東京

本日、各国の政府関係者と有識者の皆様に御参加いただき、「核軍縮の実質的な進展のための1.5トラック会合」を開催できることは大変光栄であり、喜ばしく思います。

日本政府は、「賢人会議」の会合を5回にわたり開催し、同会議からは一連の有益な提言を提出していただきました。特に昨年10月の「議長レポート」は、国際社会に多くの示唆を提供しています。同レポートは、本年のNPT運用検討会議やその後を見据えて着手し得る具体的な核軍縮措置を提示し、核兵器廃絶に向けて乗り越えるべき軍縮と安全保障の関係に関する困難な問題を特定しています。我が国は、こうした成果を運用検討プロセスでしっかりと活用しながら、核軍縮に関する国際的な議論に貢献してきています。

厳しい安全保障環境や、核軍縮をめぐる国家間の見解の相違がある中で、核軍縮の進展を図るためには、対話と橋渡しを通じて各国間の信頼を再構築することが重要です。同時に、安全保障環境の改善を図りつつ、共通の基盤を模索することが必要です。さらに、本年のNPT運用検討会議が有意義な成果を収め、NPT体制を維持・強化していくためには、核軍縮分野において前向きで具体的な展望を示すことも避けては通れません。そのために、我が国も、他のステークホルダーと協力しながら、粘り強く取組を続けていく決意です。

その一環として、我が国は、各国の政府関係者を含む責任あるアクターの間における関与と対話の機会の提供を通じて核軍縮の進展に向けた相互理解と信頼醸成を促すべく、この1.5トラック会合を立ち上げることにしました。具体的には、「賢人会議」の成果を踏まえながら、各国が現在及び今後、共に取り組める具体的な措置を検討し、核兵器廃絶のために向き合うべき問題に関する建設的な対話の在り方を模索する努力を促進していきたいと考えています。

本日の会合では、NPT運用検討会議を見据えて、透明性、核リスク低減、核軍縮・不拡散教育という3つの具体的な措置について集中的に議論を行っていただきたいと思います。我が国も重視する透明性に関しては、核兵器の保有数等に関する量的透明性と、核態勢や核政策に関する質

的透明性の両面から議論を深めることが必要です。また、それらに関する核兵器国による説明や情報共有を促す方策に係る議論も重要です。教育については、核兵器使用の実相に関する意識向上、若者の更なる関与、核兵器の非人道性と安全保障の両面を包含した対話の在り方に関し、忌憚のない議論がなされることを強く期待します。

議論における礼節や異なる意見の尊重は、「賢人会議」における最も重要な遺産の一つであります。この1.5トラック会合が、そうした「賢人会議」の精神を受け継ぎ、取るべき具体的な行動や対処すべき問題に関する思考の糧を模索する対話のフォーラムとして、核軍縮の進展に向けた機運の醸成に寄与することを切に願っております。

出典：外務省HP
<https://www.mofa.go.jp/files/100012594.pdf>
アクセス日：2021年4月5日